

【資 料】

## 口腔ケアにおける看護継続教育に関する文献検討

### Literature Review of Education in Nursing for Oral Care

仲前美由紀<sup>1)</sup>, 道重 文子<sup>2)</sup>, 川北 敬美<sup>2)</sup>  
畑中あかね<sup>3)</sup>, 恩幣 宏美<sup>4)</sup>

Miyuki Nakamae<sup>1)</sup>, Fumiko Michishige<sup>2)</sup>, Toshimi Kawakita<sup>2)</sup>,  
Akane Hatanaka<sup>3)</sup>, Hiromi Onbe<sup>4)</sup>

キーワード：看護教育, 看護継続教育, 口腔ケア

Key Words: education in nursing, continuing education in nursing, oral care

#### I. はじめに

口腔には食べる, 呼吸する, 話すなどの機能があり, その機能が低下することで様々な障害が生じる。そのため, 口腔ケアとは口腔の衛生管理のみではなく, 歯周病の予防をはじめ, 唾液の分泌促進, 上気道感染や肺炎防止, 覚醒刺激, 咀嚼・嚥下・言語訓練, 生活リズムの獲得など様々な意義が含まれる。口腔機能の維持・向上を図るということは, すなわち生活全般に関わることといえる。

従来より, 糖尿病や血液疾患等の全身疾患や妊娠等が歯周組織に影響を及ぼすことは知られていたが, 近年, 歯周病やう蝕などの口腔疾患が全身の健康に深く関わっていることが明らかになってきている。また, 平成24年の診療報酬改定により, 周術期口腔機能管理が歯科の保険点数として追加され, 近年の動向からも口腔ケアの重要性がわかる。

看護職は口腔ケアを日常生活援助技術の一つとして重要性を理解し, 日常的に実施している。Kuramotoら(2011)は, 日本における急性期入院患者のオーラルヘルスケアに関する因子分析の研究において, 全国の看護部長を対象に行った調査結果

から, 口腔衛生の研修を行っていたのは29.0%であり, 優良モデル病院に関連する因子としてオーラルヘルスケアに対する必要性の認識, 看護師に対する口腔衛生研修, 病床が多いことに強い相関がみられた報告をしている。このように卒後に口腔ケアの専門的な教育を受ける機会があるのは一部であり, 施設内での看護継続教育の必要性を示している。

そのことから, われわれ研究者らは口腔ケアは衛生管理だけでなく, 口腔のもつあらゆる機能を整えることとしてとらえ, 看護師は口腔アセスメントや生活指導, 患者教育等を含むオーラルマネジメント力が必要と考えた。そこで本研究は, 口腔ケアにおける看護継続教育の内容を明らかにし, 看護職の口腔ケアに関する実践力を向上するためのプログラム等の開発研究活動の示唆を得ることを目的とする。

#### II. 研究方法

##### 1. 研究対象

医学中央雑誌Web版を用いて, 「口腔ケア」「看護教育」をキーワードとして得られた研究論文。

1) 産業医科大学産業保健学部, 2) 大阪医科大学看護学部, 3) 神戸市看護大学, 4) 群馬大学医学部

## 2. 分析方法

- 1) 医学中央雑誌Web版を用いて,「口腔ケア」「看護教育」をキーワード検索し,発表された研究論文数ならびに発表年を把握する。
- 2) 得られた研究論文すべての発表年,掲載文献の分類,掲載文献の種類,研究者の所属機関,研究対象者,研究内容について記述統計値を算出する。
- 3) 対象となる文献は研究対象や研究方法,その成果について記載されていることが必要であり,解説や総説を除いた原著論文を抽出する。
- 4) さらに,研究対象者を看護師とし,得られた研究論文の抄録を確認後,分析対象となる文献を抽出する。
- 5) 分析対象とした文献から口腔ケアに関する看護継続教育内容を抽出する。

## Ⅲ. 結果

### 1. 口腔ケア,看護教育に関する研究発表の動向

2016年6月現在,「口腔ケア」「看護教育」をキーワードとしている研究は148件抽出され,1992年から発表されていた(表1)。発表件数は,1992年1件(0.7%),1996年1件(0.7%),2000年1件(0.7%),2002年10件(6.8%),2003年12件(8.1%),2004

年6件(4.1%),2005年4件(2.7%),2006年11件(7.4%),2007年7件(4.7%),2008年12件(8.1%),2009年13件(8.8%),2010年6件(4.1%),2011年6件(4.1%),2012年9件(6.1%),2013年19件(12.8%),2014年14件(9.5%),2015年13件(8.8%),2016年3件(2.0%)であった。2002年以降は毎年研究発表されており,平成24年(2012年)の診療報酬改定後に増加傾向にあることがわかる。

### 2. 掲載文献の分類(表2)

掲載文献の分類は,原著論文87件(58.8%),解説49件(33.1%),総説4件(2.7%),その他8件(5.4%)であった。

### 3. 掲載文献の種類(表3)

原著論文87件における掲載文献の種類は,学会誌40件(46.0%),大学・短期大学・看護専門学校の紀要ならびに研究集録27件(31.0%),病院雑誌10件(11.5%),商業誌9件(10.3%),年報1件(1.1%)であり,学会誌の投稿が多かった。

### 4. 研究者の所属機関(表4)

原著論文87件における第一筆頭者の所属機関は,病院32名(36.8%),大学30名(34.5%),短期大学14名(16.1%),専門学校8名(9.2%),大学校1名(1.1%),所属なし・不明2名(2.3%)であり,

表1 研究論文発表における  
経年変化

| (n=148) |    |        |
|---------|----|--------|
| 発行年     | 件  | (%)    |
| 1992    | 1  | (0.7)  |
| 1996    | 1  | (0.7)  |
| 2000    | 1  | (0.7)  |
| 2002    | 10 | (6.8)  |
| 2003    | 12 | (8.1)  |
| 2004    | 6  | (4.1)  |
| 2005    | 4  | (2.7)  |
| 2006    | 11 | (7.4)  |
| 2007    | 7  | (4.7)  |
| 2008    | 12 | (8.1)  |
| 2009    | 13 | (8.8)  |
| 2010    | 6  | (4.1)  |
| 2011    | 6  | (4.1)  |
| 2012    | 9  | (6.1)  |
| 2013    | 19 | (12.8) |
| 2014    | 14 | (9.5)  |
| 2015    | 13 | (8.8)  |
| 2016    | 3  | (2.0)  |

表2 研究論文発表の分類

| (n=148) |    |        |
|---------|----|--------|
| 分類      | 件  | (%)    |
| 原著論文    | 87 | (58.8) |
| 解説      | 49 | (33.1) |
| 総説      | 4  | (2.7)  |
| その他     | 8  | (5.4)  |

表3 原著論文における種類

| (n=87)  |    |        |
|---------|----|--------|
| 種類      | 件  | (%)    |
| 学会誌     | 40 | (46.0) |
| 紀要・研究集録 | 27 | (31.0) |
| 商業誌     | 9  | (10.3) |
| 病院雑誌    | 10 | (11.5) |
| 年報      | 1  | (1.1)  |

表4 原著論文における筆頭者所属機関

| (n=87)  |    |        |
|---------|----|--------|
| 所属機関名   | 件  | (%)    |
| 病院      | 32 | (36.8) |
| 大学      | 30 | (34.5) |
| 短期大学    | 14 | (16.1) |
| 専門学校    | 8  | (9.2)  |
| 大学校     | 1  | (1.1)  |
| 所属なし・不明 | 2  | (2.3)  |

表5 研究対象者の内訳

| (n=87) |    |        |
|--------|----|--------|
| 研究対象者  | 件  | (%)    |
| 看護師    | 42 | (48.3) |
| 学生     | 39 | (44.8) |
| 患者     | 3  | (3.4)  |
| 文献     | 2  | (2.3)  |
| その他    | 1  | (1.1)  |

研究者の所属は病院、次いで大学が多かった。

## 5. 研究対象者とデータの内容 (表5)

原著論文87件における研究対象者は、看護師42件 (48.3%)、学生39件 (44.8%)、患者3件 (3.4%)、文献2件 (2.3%)、その他1件 (1.1%) であり、看護師を対象にしている研究が多く、次いで学生が多かった。

## 6. 研究内容

原著論文87件の抄録を確認し、研究対象者を看護師に絞った結果、研究論文32件が抽出された。32件の研究内容では、勉強会や学習会・教育プログラムの有効性に関する研究11件 (34.4%)、ケアマニュアルやアセスメントシートの効果に関する研究9件 (28.1%)、援助技術実施に関する実態調査5件 (15.6%)、口腔ケアの認識に関する研究3件 (9.4%)、学習ニーズに関する研究2件 (6.3%)、学習状況と実施状況に関する研究、その他1件ずつ (3.1%) であり、勉強会などの学習機会を設け、その有効性に関する研究が多く、次いで口腔ケア手技統一を図るための媒体を作成し、その効果に関する研究が多かった (表6)。

今回は本研究の目的である看護継続教育における教育内容を明らかにするため、勉強会や学習会・教育プログラムの内容が示されていた研究11件に絞った。

## 7. 勉強会や学習会・教育プログラムの有効性に関する研究

分析対象11件の発表年、教育内容、成果等については表7に示した。発表年は2003年、2006年、2008年、2010年、2012年、2015年、2016年にそれぞれ1件ずつ、2013年4件が最も多く発表されていた。施設全体の集合教育は1件であり、10件は各

病棟で実施されたものであった。研究対象数は9～46名であった。

学習会などの開催は、複数回実施している研究は4件、体験型学習会を取り入れている研究は4件であった。また、口腔外科医師、歯科医師、歯科衛生士、言語聴覚士などの他職種の協力を得て実施している研究は5件みられた。学習会の内容では、解剖生理をはじめとする病態生理や口腔乾燥を招く薬剤の知識、誤嚥性肺炎の病態ならびにその予防方法、口腔内観察の重要性、口腔ケア用品の選択方法や口腔ケアの具体的援助方法などが教授されていた。そのうち体験を取り入れている研究では、シミュレーション教育を取り入れた体験型学習、歯科衛生士から指導を受けて実施するブラッシングがあった。

## IV. 考察

### 1. 口腔ケア、看護教育に関する研究発表の動向

口腔ケアに関する研究は毎年400～800件報告されているが、そのうち看護基礎教育ならびに看護継続教育に関する研究は2002年以降毎年4～19件である。研究者の所属機関は、病院が最も多く36.8%、ついで大学34.5%であった。口腔ケアは看護基礎教育ならびに看護継続教育において関心のある分野であることがわかる。

研究対象は看護師が48.3%、ついで学生44.8%であった。教育機関における研究では、実習における実施状況や学内演習前後の習得状況などの研究が多かった。文部科学省における「大学における看護実践能力の育成の充実に向けて」(平成14年看護学教育の在り方に関する検討会報告)の看護師教育の技術項目と卒業時の到達度にもあるように口腔ケアにおいては口腔の清潔を通して患者の観察ができなければならない。松下ら(2014)の専門的口腔ケアの授業時間等の調査では、歯科医師320分、歯科衛生士11760分、医師45分、看護師121分、言語聴覚士138分と報告されているように看護基礎教育上授業時間は多いとはいえない。口腔の清潔は日常生活援助技術の一つとして、毎日日常的に実施される援助の一つであり、対象の口腔内の状況により援助を変化させる技術が求められる。近年の動向から

表6 研究内容の概要

| 研究内容                 | (n=32) |        |
|----------------------|--------|--------|
|                      | 件      | (%)    |
| 勉強会の効果               | 11     | (34.4) |
| ケアマニュアル・アセスメントシートの効果 | 9      | (28.1) |
| 実態調査                 | 5      | (15.6) |
| 口腔ケアの認識              | 3      | (9.4)  |
| 学習ニーズ                | 2      | (6.3)  |
| 学習状況と実施状況            | 1      | (3.1)  |
| その他                  | 1      | (3.1)  |

表7 看護師を対象とした学習会等に関連した研究内容一覧

| 研究者<br>(年)    | 教育内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 指導者                 | 成果と課題                                                                                                                                                                                                         |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 林他<br>(2016)  | 誤嚥性肺炎予防ケア教育プログラムを作成し、集合教育しているが、口腔ケアに関する具体的な教育内容が不明。吸引・口腔ケアバンドルとしているが内容が不明。<br>集合教育として、シチュエーション・ベースド・トレーニング形式をとりいれ、全3回の講義(180分)を2回実施した。                                                                                                                                                                                                                                                                             | 感染管理認定看護師<br>リンクナース | 教育内容の理解度は良く、研修にシミュレーション教育を取り入れた効果がみられた。今後の課題は、シミュレーション教育などの実践力を高められるプログラムを再考し、継続的に教育的介入を行っていくことである。                                                                                                           |
| 赤尾他<br>(2015) | 1) 勉強会前に口腔ケアの問題点把握のための意識調査<br>2) 歯科衛生士の指導下で実践可能な口腔ケアを検討<br>3) 体験型勉強会を実施                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 歯科衛生士               | 積極的な口腔ケアへの行動変容、清潔保持と同時に全身状態悪化予防のために必要であるという認識の変化が見られ、患者の立場に立った口腔ケアの実践や意識の向上につながった。今後も継続に向けた啓蒙活動が必要である。                                                                                                        |
| 石田他<br>(2013) | 集学治療病棟の口腔粘膜障害発生事例からリスクアセスメントとケアについて、カンファレンス型学習会を2ヵ月ごとに3回実施<br>1) 第1回:解剖生理・病態を確認し、口腔粘膜障害4事例から問題点を抽出した。入院時の口腔内観察の重要性、口腔乾燥に対して加湿・唾液腺マッサージの方法、含嗽薬のグレード別の選択と薬効について説明した。歯科受診やNST・摂食嚥下リハビリとの連携について説明した。<br>2) 第2回:口腔粘膜障害事例の22名の共通点を示しリスク因子を明示した。グレードⅡ～Ⅲ患者2名に対してケアの評価と、導入可能なケアについて話し合った。グレード別の疼痛コントロール方法と口腔ケアグッズについて説明した。<br>3) 第3回:グレードⅢ以上の2事例から、入院時から退院までのリスク因子とケア方法を話し合った。栄養障害に対しての補助食品の使用や対応方法とグレードⅢ以上の口腔ケア方法について説明した。 | 看護師                 | 【予防的な実践】は学習会前の18%から100%になり、【ケア方法】を83%が実施していた。事例学習会を繰り返し行ったことで、看護師は患者をイメージしながらリスクと看護ケアを振り返り、知識を実践に結び付けるきっかけになった。今後の課題はアセスメント能力が向上し、ケアレベルの底上げができたかを追跡調査することである。                                                 |
| 遠藤他<br>(2013) | 歯科口腔外科医師、歯科衛生士と連携し、口腔ケア方法・口腔ケアアセスメントシート(ROAG評価)について勉強会を開催。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 歯科口腔外科医師<br>歯科衛生士   | 口腔アセスメントシートを活用し、口腔内評価の統一ができ、個別性に合ったケアの提供ができた。統一した口腔ケアを提供することを目指し、フローチャートの作成を考えている。                                                                                                                            |
| 古賀他<br>(2013) | 1) 言語聴覚士による講義と演習<br>2) 感染管理認定看護師により誤嚥性肺炎の予防を中心とした感染対策の視点での講義                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 言語聴覚士<br>感染管理認定看護師  | 学習前は、「どのようにしたら口腔ケアを実施できると思いますか」の問いに、マニュアルを作成するが56.3%であったが、学習後は18.8%に低下し、「業務改善」や「物品をそろえる」が増加した。「口腔ケアが必要な患者に十分実施できている」「どんなに忙しくても口腔ケアを実施している」は前後で増加がみとめられなかった。全スタッフが統一したケアを行うためには、ワークシートに回数をチェックボックス式に記載する必要がある。 |
| 種村他<br>(2013) | 口腔ケアの方法や絶食中の口腔ケアの必要性について勉強会を行った。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 看護師                 | 口腔ケア勉強会の実施や、術前オリエンテーションをパンフレットを使用して行ったことにより、周手術期の口腔ケアの必要性に対する看護師の意識が高まり、絶食患者へ統一した指導を行うことができるようになった。                                                                                                           |
| 杉平他<br>(2013) | 「化学療法を受ける患者の口腔ケアについて」の学習会を昼のカンファレンス時に行った。全員が受けてもらえるように3回に分けて開催した。学習会では、観察の必要性を説明し観察項目を挙げた。歯科医師の協力を得て患者指導用のパンフレットを作成した。                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 看護師                 | 訴えがあった時だけでなく、勤務時間内に口腔内を観察している人が増加した。口内炎を悪化する前に予防するという意識が高まった。看護師から積極的に観察する機会を設ける。                                                                                                                             |

| 研究者<br>(年)    | 教育内容                                                                                                                                                               | 指導者           | 成果と課題                                                                                                                                                                                                        |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 吉田他<br>(2012) | 口腔ケアについての勉強会を3回実施した。<br>1) 歯科医師による口腔内解剖生理についての講義<br>2) 歯科衛生士による口腔ケアの実技演習<br>3) ディスカッションによりプロトコルを作成                                                                 | 歯科医師<br>歯科衛生士 | 歯科衛生士が定期的に評価を行うことで、看護師が自らのケアと重症患者の口腔内状況を関連付け、客観的に振り返ることとなり口腔内状況の改善に繋がった。<br>プロトコル作成により重傷患者個々に合ったケア方法をタイムリーに歯科衛生士より指導を受けることが可能になり、患者に応じたケア技術の習得に繋がった。<br>看護師も評価が行えるよう歯科衛生士とともに指導・育成していくシステムづくりが必要である。         |
| 関他<br>(2010)  | 勉強会を同内容で3回開催。<br>1) 口腔ケアの意義・目的・方法を提示<br>2) スタンダードな口腔ケア技術を演習<br>①保湿 ②粘膜ケア ③ブラッシング ④舌ケア<br>⑤うがい                                                                      | 看護師           | 口腔ケアの重要性や効果に対する認識は勉強会前から高かったが、勉強会後には清潔援助における優先度が高くなった<br>勉強会後には口腔ケアの実施回数が増加し、特に誤嚥性肺炎などの感染予防に重要な就寝前の口腔ケアの実施が増えた。<br>半数以上が口腔ケアを行っていないと感じており、その理由として「知識・技術不足」「自信がない」「十分な時間がない」などがあがり、口腔ケアの実施に対する満足度は高いとはいえなかった。 |
| 富山他<br>(2008) | 歯科衛生士よりブラッシング行動の留意点を説明してもらいながら、患者モデルに対して参加スタッフに看護師役を体験してもらった。<br>看護師モデルが患者モデルに口腔ケアする場面をVTR録画し、それを研究参加者にVTRをみてもらう。話し合い後、評価表にブラッシング行動についての看護師の行動を記入してもらい、勉強会前後で比較する。 | 歯科衛生士         | ブラッシング時に視野を広くとる人の割合が増えた。<br>口腔ケアに関して専門的教育を受ける機会が少ない。<br>歯科医師や歯科衛生士などの専門家から定期的に教育を受け、スキルアップを図る必要がある。                                                                                                          |
| 桐山他<br>(2006) | 歯科による病棟単位での口腔ケア勉強会を開催。                                                                                                                                             | 歯科医師          | 勉強会を行った病棟の看護師の口腔ケアに対する意識の向上が見られ、口腔を観察する機会が増えた。<br>ケアを専門家に頼ることなく、看護師が中心として行っていこうという意識がみられた。<br>研修によりある程度の知識があると、逆に技術の不足、誤嚥や出血への心配という意識が強い傾向があり、勉強会の方法を改善していく必要がある。                                            |

も口腔に関する専門的知識が求められるため、今後看護基礎教育の教授内容を検討していく必要性が示唆された。

## 2. 口腔ケアにおける看護継続教育に関する取り組み

近年、歯周病やう蝕などの口腔疾患が全身の健康に深く関わっていることが明らかになり、口腔ケアの重要性が高まっている。対象者に必要なケアを提供するため、病院独自のアセスメントシートの作成や学習会の実施など様々な取り組みがなされており、効果を得ていると報告されていた。とくに提供する技術の統一に向けた学習会においては、解剖生理や病態生理の基礎的知識から口腔乾燥に影響する薬剤

など知識の確認、シミュレーション教育を取り入れた体験型学習などの取り組みにより、知識と技術の習得に効果があることが報告されていた。

しかし、これらの取り組みは各病棟で実施されていることが多かった。静岡がんセンターでは、看護師への口腔ケアの普及および標準化を図り、多職種によりケアの質を向上させるために人材養成プログラムに口腔ケア専門コースをつくり、リンクナースを養成していた。全部署に専門知識、技術を有した看護師を置くことにより看護師が口腔トラブルを早期に発見し、適切な対処や医師との連絡をとり、患者のQOLを向上させることにつながっていた(水

主, 2010)。歯科医師や歯科衛生士らを講師に学習会を行うことは、一過性の成果はみられるが、継続的に質を担保していくためには、看護師らが指導にあたり評価していく体制を整えることが重要と考える。また、療養型施設等で歯科医師が口腔ケアに関する学習会を行っても定着化につながらないことから、看護師・介護福祉士等を対象に行った調査(原田他, 2012)では、「口腔ケアを主体的に行ってほしいと望まれていた職種は歯科医師と歯科衛生士であった。」と報告している。現在、多くの病院では、診療報酬の改定により周術期口腔衛生管理料がとれることから、歯科衛生士が入院患者の口腔ケアに携わる機会が増えてきたが、歯科領域の専門職がケアに関与する対象や回数には限界がある。入院療養者全員の日々の口腔ケアは看護師の役割であり、職種のそれぞれの役割を意識し協働が求められる。

また、調査した口腔ケアの継続教育の内容は口腔衛生を主としたものであり、人々のQOLを向上させるためには広義の口腔ケアを理解し、オーラルマネジメント力の育成が必要である。そのことから、チームで行う口腔ケアの効果を上げるためには、看護師や介護職の知識や技術の向上に向けた継続教育プログラム開発の必要性が示唆された。

## V. おわりに

口腔ケアに関する看護教育の文献について研究動向を概観し、11件の看護継続教育の内容を整理した。臨床で行われている口腔ケアに関する看護継続教育は、病棟単位で行われ、口腔衛生を主としたものであり、オーラルマネジメントの概念は普及していなかった。

今後は看護師の口腔ケアに対する実践力向上のために、オーラルマネジメントの理解を深める継続教育プログラムの開発と普及をしていきたい。

## 文献

赤尾真優美, 尾本和美, 野上美緒, 他 (2015): 含嗽用重曹を用いた5分間口腔ケアの実践 体験型勉強会と口腔内pH測定を通して, 日本看護学会論文集:ヘルスプロモーション, 45, 70-73. 1.

遠藤千華実, 松岡亜季, 神原照美 (2013): 口腔ケアの統一を目指して 口腔ケアアセスメントシート (ROAG評価)の活用, 名古屋市立大学病院看護研究集録, 2011, 7-9.

原田千春, 原 巖, 田原瑞枝, 他 (2012): 口腔ケアに対する意識調査(第1報) 日常臨床における口腔ケアの位置づけと限界, 日本慢性期医療協会誌, 20(3), 48-51.

林 珠美, 永井信子, 小林秋恵 (2016): A病院における誤嚥性肺炎予防ケアの教育プログラムの有効性の検討, 日本看護学会論文集:看護教育, 46, 246-249.

石田亜季, 山中仁美, 坂井朋子, 他 (2013): 化学療法を行う頭頸部腫瘍患者の口腔ケアに関する看護師の意識の変化 事例学習会後の意識・実態調査から, 市立豊中病院医学雑誌, 13, 45-50.

木村吉宏, 島原政司, 橋本成美, 他 (2013): 口腔疾患と全身とのかわり, 藍野学院紀要, 27, 9-17.

桐山 健, 岸本敏子, 新居陽子, 他 (2006): 口腔ケアに関するアンケート調査 口腔ケア勉強会の効果について, 広島県立病院医誌, 38, 39-46.

Kuramoto C, Watanabe Y, Tonogi M, et al. (2011): 日本における急性期入院患者のオーラルヘルスケアに関する因子分析, Geriatrics&Gerontology International, 11 (4), 460-466.

古賀美貴, 佐々木美穂, 長岡明穂 (2013): 体験型口腔ケア学習会の効果 看護師の行動変化を比較して, 日本看護学会論文集:老年看護, 43, 11-14.

水主いづみ (2010): がん看護における口腔ケア教育システム, がん看護, 15(5), 521-523.

松下英二, 伊賀弘起, 吉田幸恵, 他 (2014): 口腔ケアに関連する国家試験の出題基準・出題状況および教育内容の調査研究, 日本口腔ケア学会雑誌, 8(1), 22-28.

渋谷亜佑美, 香川智世, 小佐々康 (2015): 滋賀医科大学医学部附属病院における口腔ケアの現状と展望, 滋賀医大誌, 28(1), 50-54.

関 友美, 津留崎真, 稲野辺麻衣, 他 (2010): 看護師の口腔ケアへの意識を高める勉強会の効果についての検討, 茨城県立医療大学付属病院研究誌, 13, 47-50.

杉平良子, 石本弥希 (2013): 化学療法を行う患者への口腔ケアに対する看護師の取り組み パンフレットを用いた指導を導入して, 中国労災病院医誌, 22(1), 56-61.

田中 彰 (2016): 周術期口腔機能管理の現状と課題～現場で必要とされる歯科衛生士の育成に向けて～, 全国大学歯科衛生士教育協議会雑誌, 5, 13-20.

種村有記, 河村奈美子, 木嶋杏美, 他 (2013): 絶食患者の

口腔ケアに対する看護師の意識調査と改善の試み, 名古屋市立大学病院看護研究集録, 2011, 48-50.

富山恭子, 小林加奈, 間所未来, 他 (2008): 看護師のブラッシング行動における勉強会前後の比較, 日本看護学会論文集: 看護総合, 39, 342-344.

吉田佳子, 若松真紀, 江木みさゑ, 他 (2013): 他職種との連携による口腔ケアのプロトコール作成 口腔ケアに対するチームアプローチ, 日本看護学会論文集看護総合, 42, 31-33.